

学長式辞

本格的な春の訪れが、そこかしこで感じられる季節となつてまいりました。本日、ここに平成 28 年度卒業式を挙行できますことは、この上ない喜びであります。

卒業生の皆さん。ご卒業、おめでとうございます。

全教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。そして、今日まで皆さんを支えてこられたご家族の皆様にも、心からお慶び申し上げます。

また、ご臨席賜りましたご来賓の皆様には、卒業生の晴れの門出をともに祝っていただき、誠にありがとうございます。

ただいま、大学 290 人、短期大学部 179 人、計 469 人の卒業生に「卒業証書・学位記」を授与いたしました。四年間、三年間、二年間、学びの期間はさまざまですが、この「卒業証書・学位記」は、皆さんがそれぞれの学部・学科で勉学に励み、兵庫大学、兵庫大学短期大学部での学びを終えられた証です。

そして本日は、多くの人に支えられ、見守られて、学生生活を送り、これから、社会人としての歩みが始まるという一つの節目でもあります。

卒業生の皆さん。われわれ教職員の共通の願いは、全ての方が社会の一員として、社会に貢献し、幸せで豊かな人生を送ってほしいということです。

幼い頃から、皆さんを温かく見守ってこられたご家族の思いもきっと同じでしょう。これから始まる長い人生において、たくましく、そしてしなやかに歩んでいかれることを願っています。

さて、卒業にあたり、大学、短期大学での「学び」の意味について、お話ししたいと思います。皆さんが一生懸命に学ばれ、身につけられた知識ですが、知識そのものが実社会の中ですぐに役に立つ、という機会はそれほど多くはないと思います。しかしながら、学位を取得する過程で、知識を得るために積んでこられた経験は、これからの皆さんにとって大きな力になってくれるものと信じています。

例えば、もっと知りたいと思う探究心、難しい課題に遭遇した時、どうやったら解決できるのかと真剣に考える姿勢、仲間と共に努力し、支え合い、分かち合うといった、人と何かを共有することの素晴らしさなど、その一つ一つが、大学、短期大学での学びそのものであったはずです。

大学で学んだ知識や学術的視点、そしてそれらを獲得するために積んでこられた様々な経験は、必ずや皆さんの一生の財産となると信じています。

卒業生の皆さんが本学で身につけられたものには、今お話しした知識や知識を探究する姿勢とともに、「和」の精神があったことを今一度思い起こしていただきたいと思います。

本学の建学の精神は、ご存知のとおり、聖徳太子の十七条憲法に示された「和」です。聖徳太子は、多くの名言と呼ばれるものを残していますが、一貫して「和」を基本としています。

そこでは、自分の心を大切にしながら、他者の心も大切にする、他者の思いを受け入れることが説かれています。一言で表現すれば、「互いを尊び 互いを活かしあう」ということではないでしょうか。

本学は学校法人睦学園に設置された大学、短大ですが、「和」の精神を具現化する行動規範である「学園訓」として、「感謝」「寛容」「互譲」が掲げられています。

人として感じる心、共感する心、人への慈しみの心、思いやりに溢れた心を大切にしてほしいと思います。

さて、最後に、卒業していく皆さんに、お伝えしておきたいことがあります。これから皆さんが歩む長い人生は、無限の可能性を秘めています。ただ、これまでの人生の中で体験したことのないような大きな壁にぶつかることもあるでしょう。

そのような時には、大学、短期大学での学びや経験を基礎としながら、さらに学び、柔軟な思考を巡らせ、乗り越えていただきたいと思います。そのためにも、皆さんにはぜひ、それぞれが置かれた場所で、さらに研鑽を積んでいただきたいと思います。

日々の生活の中から、さまざまなことを見て、感じて聴き入って考える、その姿勢が、皆さんの個性、智慧となり、問題を解決してくれるはずです。

それでもなお、壁を乗り越えれそうにない時は、私たちを訪ねてください。もし皆さんが、これからの人生の中で孤独に苛まれるようなことがあったとしても、決して一人ぼっちではないことを思い出してください。私たちは常にあなた達と共にあります。

いつでも帰っていらっしやい。

それでは、卒業生の皆さんが、これからの長い人生をしっかりと歩まれ、健康で幸せでありますことを、心より念じまして、平成 28 年度卒業式の式辞とします。

平成 29 年 3 月 23 日

兵庫大学・兵庫大学短期大学部
学長 河野 真